

徳島県立農林水産総合技術支援センター



水産研究課

Fisheries Research Institute,

Tokushima Agriculture, Forestry and Fisheries Technology Support Center



全国トップクラスの生産を誇る徳島の活ハモ



アワビの生産を支えるために放流された稚貝



本県独自の技術で開発された高温耐性を有するワカメ新品種



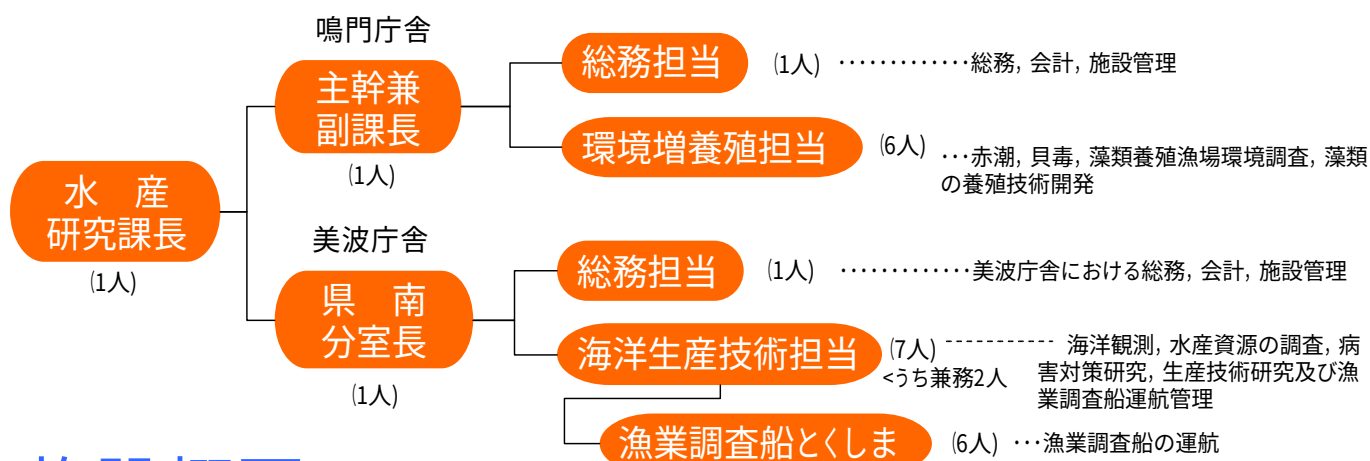
徳島県では病気に強い短期世代アユ種苗を生産，放流

<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/suisun/>

沿革

明治34年	4月	設置，県庁内に事務所を置く
34年12月		名東郡齊津村に新庁舎が落成し，移転
大正3年	4月	県庁内に移転
昭和20年	5月	県庁内から県立水産学校に移転
23年	8月	海部郡日和佐町に庁舎を新築し，水産学校から移転
37年	4月	小歩危養鱒場を水産課から移管
40年	3月	鳴門市瀬戸町に鳴門分場を設置
46年	9月	本場を日和佐町日和佐浦に新築移転
平成12年	2月	漁業調査船「とくしま」代船建造
12年	3月	小歩危淡水養魚場廃止
13年	4月	徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所に再編
17年	4月	組織再編により，徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究所に改称
18年	3月	鳴門分場改築完成
18年	4月	本場を美波庁舎，分場を鳴門庁舎と改称
25年	4月	組織改編に伴い水産研究課に改称

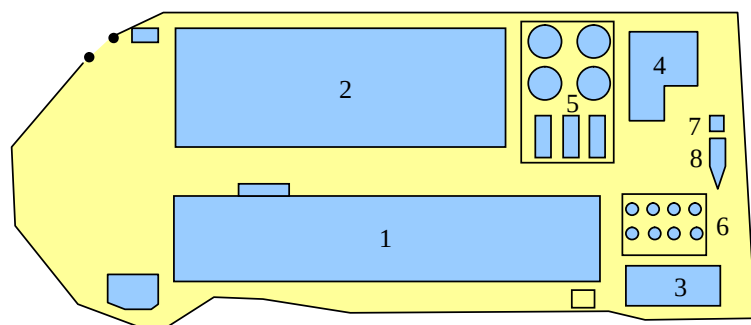
組織



施設概要

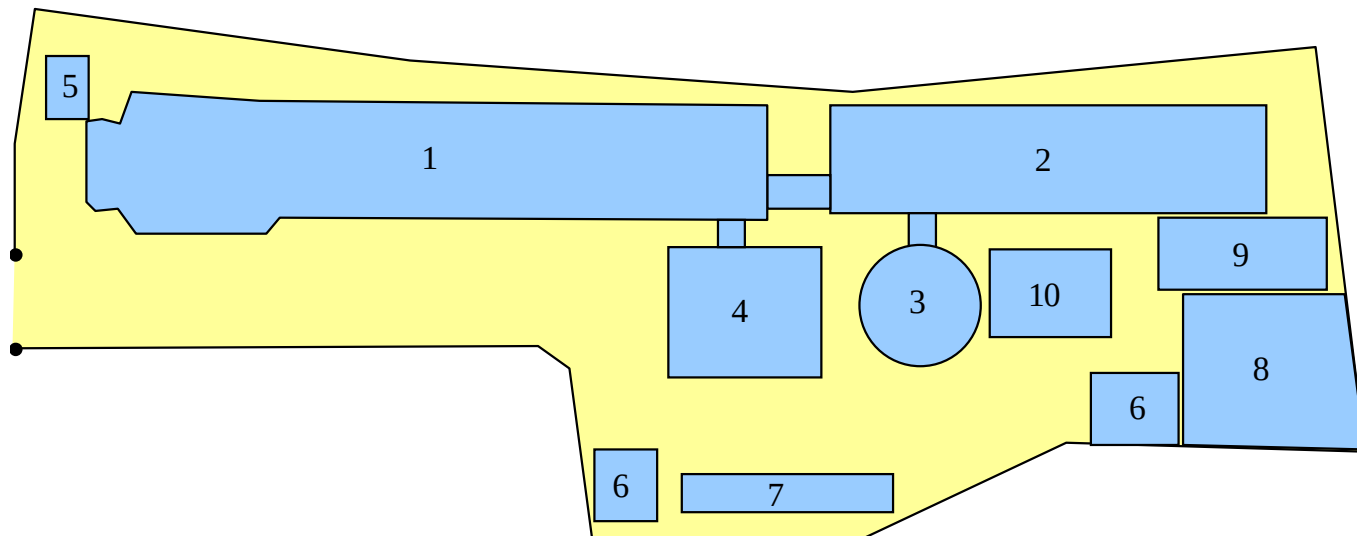
■ 主要施設概略図

<鳴門庁舎>



- 本館（鉄筋コンクリート2階建て）
1階 --- 研究員室，第2生物研究室，サンプル処理室，図書室，休憩室
2階 --- 一般分析室，精密分析室，NP分析室，第1生物研究室，培養室，薬品室
- 生物飼育棟（鉄骨平屋建て）
研修室，作業室，倉庫，冷凍冷蔵庫，藻類培養室，飼育作業室
- 藻類培養棟（ガラス温室）
- ポンプ棟
- 組立式水槽（10～12ト）
- 簡易水槽（1ト）
- クレーン
- 船舶
調査船「うずしお」 船外機30KW

<美波庁舎>



1 本館（鉄筋コンクリート4階建て）

1階 --- 資料展示室，分析室，精密測定室，薬品室，海洋研究室，資源研究室

2階 --- 所長室，事務室，研究員室，第2会議室，病理研究室

3階 --- 第1会議室，図書室

2 作業棟

機械室，冷蔵室，恒温室，実験グラウンド

3 生理生態実験棟（鉄筋コンクリート円筒型2階建て）

円型池，実験グラウンド

4 機械棟

5 揚水ポンプ棟

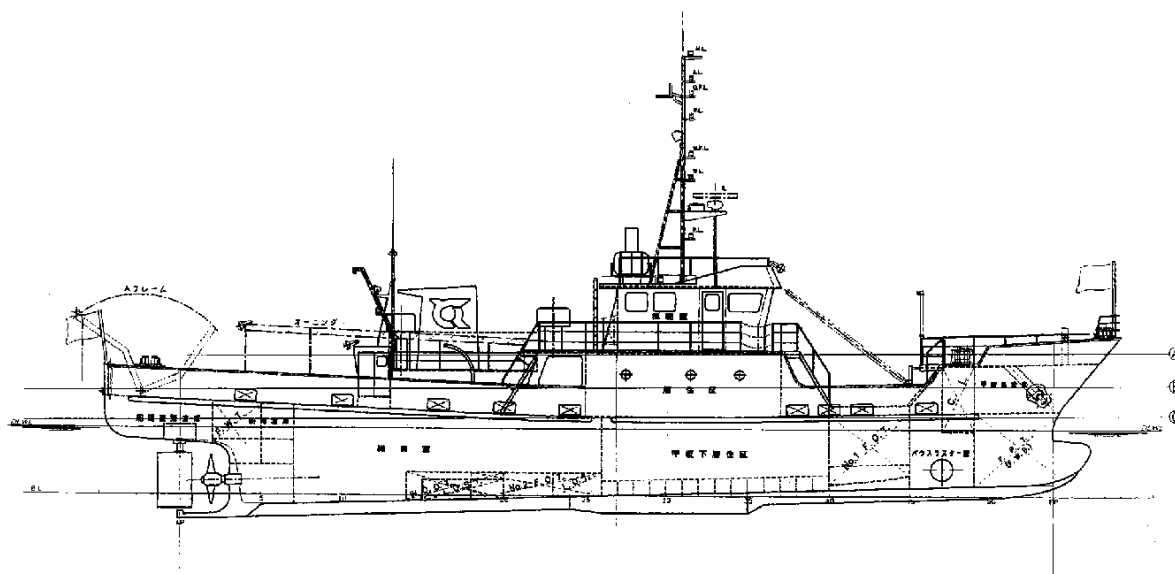
6 車庫

7 倉庫

8 職員公舎

9 生物実験棟

10 生物測定標本室（鉄筋コンクリート平屋建て）



○ 漁業調査船「とくしま」

竣工 平成12年2月9日
船質 鋼，一部耐食軽合金
全長 32.71m
幅 6.1m

深さ 2.60m
総トン数 80トン
主機関 ディーゼル，1,200馬力
(330農林馬力，882KW)
航海速力 12.4ノット

環境増養殖担当

赤潮や貝毒の調査，養殖漁場の環境調査を行い情報発信をしています。また，藻類養殖技術の開発研究，藻場造成技術開発研究，内水面の資源・栽培漁業調査などに取り組んでいます。

○ 赤潮・貝毒調査研究

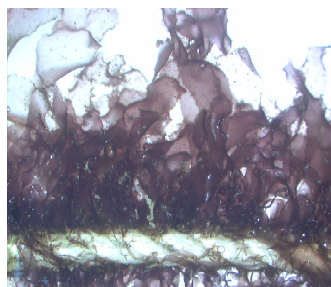
魚介類を死滅させる有害赤潮プランクトンや，二枚貝を毒化させる有毒プランクトンの出現状況を調査し，情報を発信して被害の防止に努めています。



▲左から夜光虫赤潮，中上は有害赤潮プランクトンのシャットネラ・アンティーカ，中下は貝毒プランクトンのアレキサンドリウム・タミヤバニッチ，右は検鏡風景

○ 藻類養殖漁場環境調査

養殖ノリ・ワカメの生育に必要な海水中の栄養塩量（リン，窒素）を調査し，情報提供を行い，色落ち防止等養殖管理に役立てています。



▲正常なアマノリ葉体



▲栄養塩不足により色落ちしたアマノリ葉体



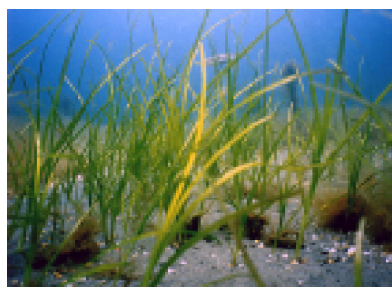
▲正常なワカメ(左)と色落ちしたワカメ(右)



▲自動栄養塩分析装置

○ 藻場造成試験

砂泥性のアマモ場，岩礁性のガラモ場及びサガラメ・カジメ場の造成技術や造成効果に関する調査研究を行っています。



▲アマモ場造成試験



▲ガラモ場造成試験



▲单体礁に形成されたカジメ場

○ 藻類養殖技術研究

ワカメの優良品種開発、アマノリの育苗など藻類養殖技術の開発、ヒジキ及びアオノリなどの有用海藻の増養殖試験に取り組んでいます。



▲ワカメのフリー配偶体の培養



▲三陸支援で収穫されたワカメ



▲ワカメ新品種



▲ヒジキの養殖試験



▲アオノリの養殖試験

○ 増養殖研究

アワビ、イセエビ等の磯根資源の調査を行っています。



▲アワビの放流稚貝



▲回収された放流アワビ



▲イセエビのガラスエビ

○ 内水面資源・栽培漁業調査

河川等でアユ、カワバタモロコ等淡水魚やシジミの資源・栽培漁業調査などに取り組んでいます。



▲アユの遡上量調査



▲シジミ稚貝の分布調査



▲カワバタモロコの種苗生産

美波庁舎

海洋生産技術担当

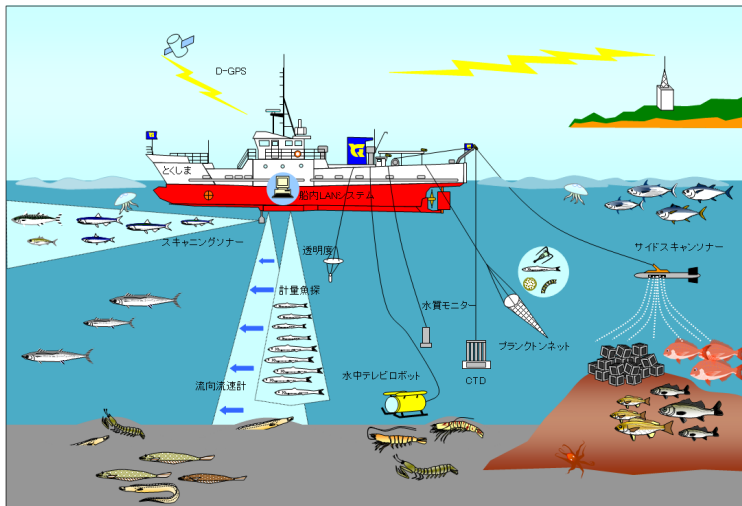
漁場環境，水産資源，漁具漁法改良及び水産物の生産，加工にかかわる調査・研究を行ない，情報の発信を行っています。また，新しい魚介類の病気の侵入や蔓延を防止するとともに，診断や治療の指導及び予防技術の試験研究に取り組んでいます。

○海洋観測調査

漁業調査船「とくしま」を活用して漁業に大きな影響を与える水質，プランクトン，卵稚仔，魚群量，クラゲ，及び魚礁等海底地形に関する調査を行っています。週間漁海況情報，水温情報をはじめさまざまな漁業に関する情報をホームページを通じて提供しています。



▲漁業調査船「とくしま」(80 トン，1200 馬力)



▲「とくしま」による調査の概要



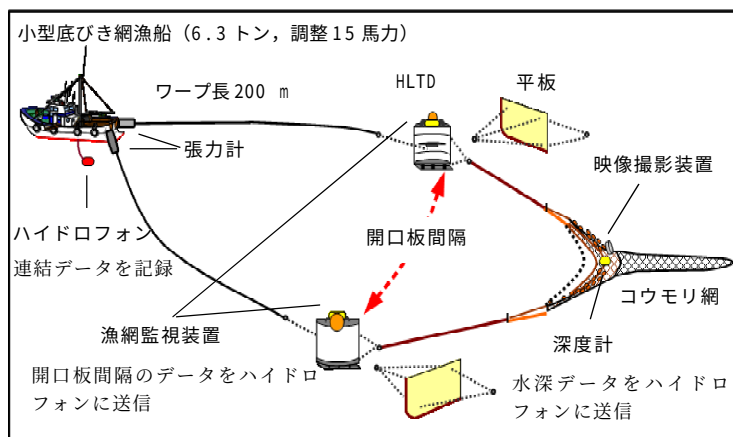
▲プランクトン
ネットによる魚卵
稚仔調査



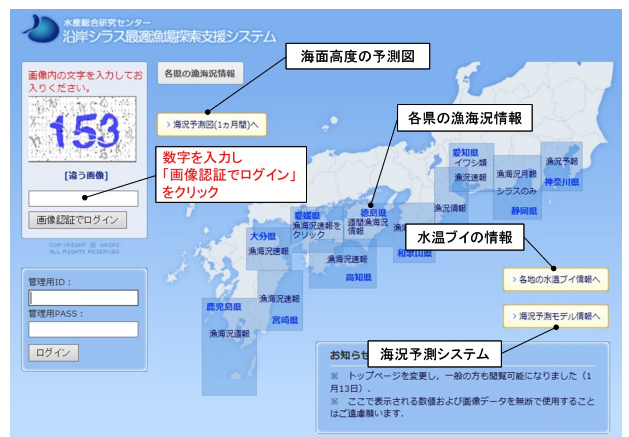
▲調査機器により観測された
データは船内の研究室のパソ
コンに保存される。

○資源調査

県南部沿岸域に生息する水産資源を持続的に利用するための調査，水産業にとって重要な魚種の資源動向の把握やその有効利用に関する試験・研究に取り組んでいます。



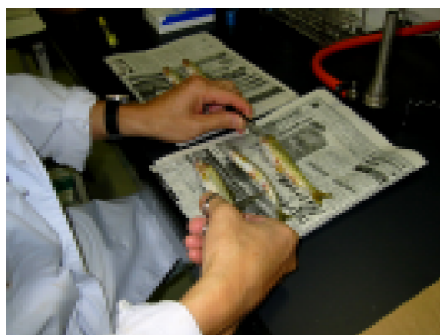
▲小型底びき網のFRP製高揚力オッターボードと網具の開発・実証試験



▲沿岸シラス最適漁場探索支援システムの開発

○ 病害対策研究

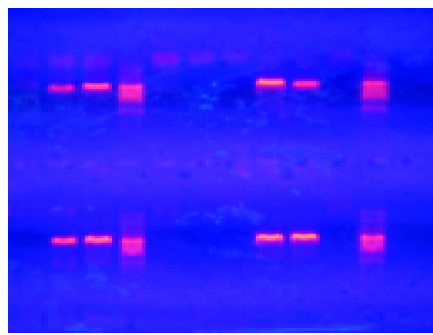
養殖魚の魚病診断や魚病の予防技術の開発研究に取り組んでいます。



▲魚病診断



▲培養細胞による
ウイルス検査



▲遺伝子情報による魚病診断

○ 生産技術研究

漁具漁法の改良や高品質の水産物を生産、加工するための研究を行っています。



▲アオリイカの鮮度保持試験



▲アジアカエビの小ロット輸送技術
の開発



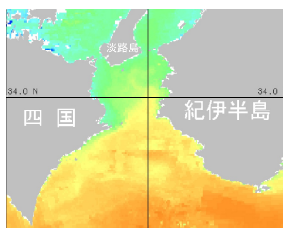
▲LED 集魚灯試験

○ 情報発信

漁業者の効率的な操業を支援する目的で得られた技術や情報は、ホームページ、水研だより、成果発表会、及び一般公開等で迅速に公開しています。また、県産ブランド水産物を普及するため、ブランド水産物もの知り図鑑を発行しています。



▲水産研究課ホームページのトップページ



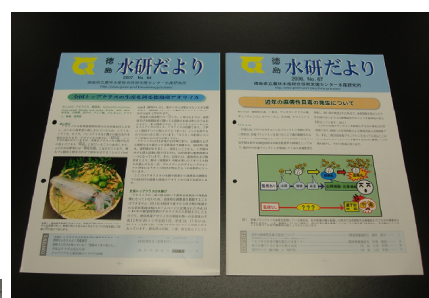
▲人工衛星水温情報



▲成果発表会



▲センターフェア
(タッチングプール)

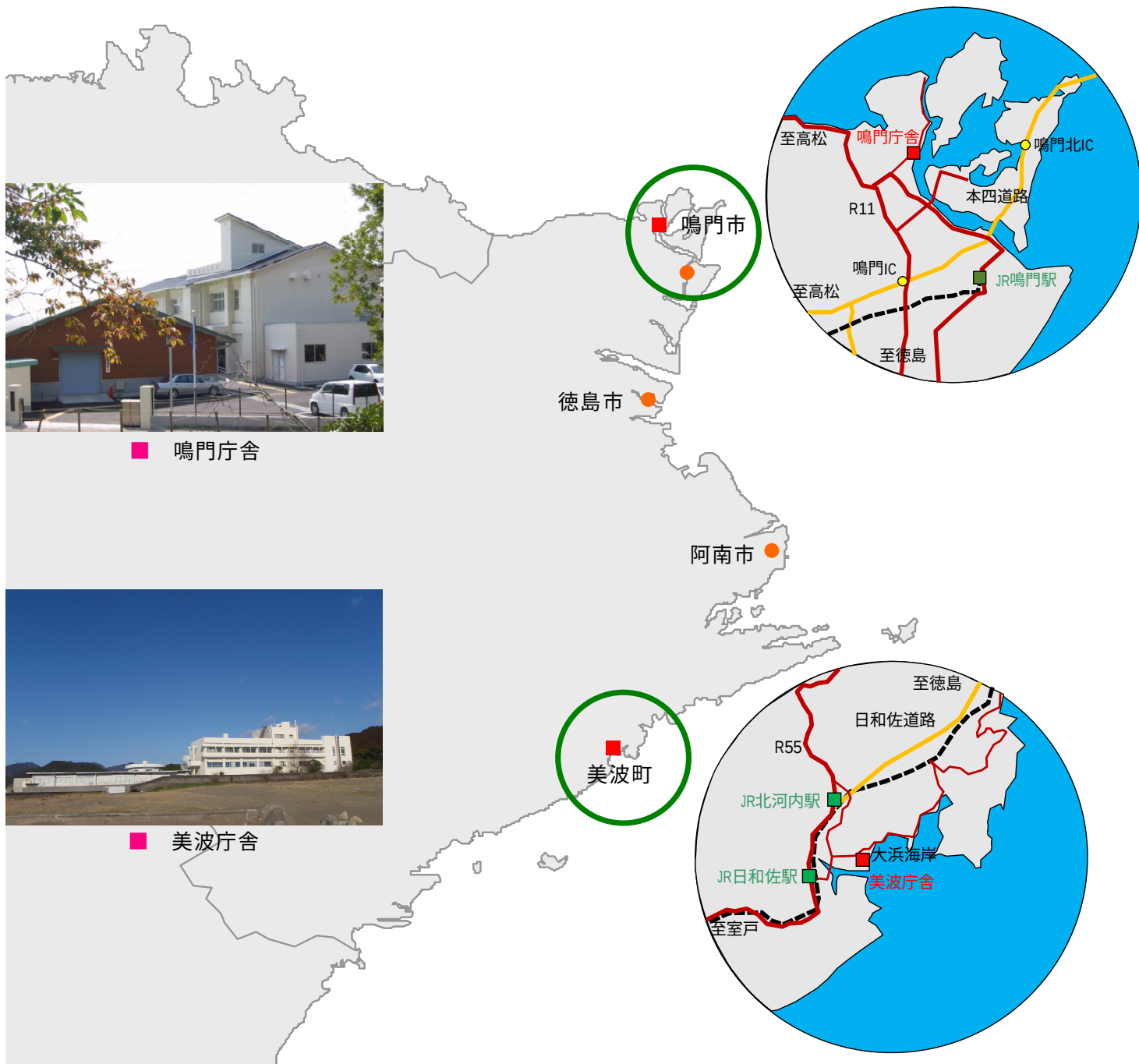


▲水研だより(年4回発行)



▲ブランド水産物もの知り図鑑

位置及び交通



徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課

ホームページ (<http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/suisun/>)

携帯電話用ホームページ (<http://mobile.pref.tokushima.jp/tafftsc/suisun/>)

右のQRコードをバーコードリーダー機能の付いた携帯電話で撮影すると携帯サイトへジャンプします。対応していない機種もあることをご了承ください。



鳴門庁舎

〒771-0361

徳島県鳴門市瀬戸町堂浦字地廻り 壱 96-10-2
TEL 088-688-0555 FAX 088-688-1622

美波庁舎

〒779-2304

徳島県海部郡美波町日和佐 1-3
TEL 0884-77-1251 FAX 0884-77-2744